

鹿屋市曾田町6647  
南日本新聞社鹿屋支社  
電話88・98・126番

進歩しているのではないでしょう  
か。最近いろいろ町内における奉  
仕について論議されているようで  
ありますが、町も一から十まで金

活に入ることを面倒だとするこ

に盛岡郡出身者に独占された形で、望中の処、今回運行開始とあつたが、社会的経験の少ない、次の通り改められ、非常に

大木  
大木  
7.0  
8.4  
1.3  
5.3  
鹿  
鹿

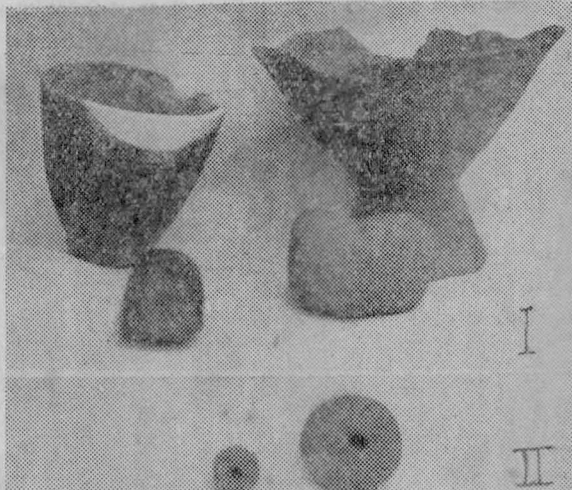
堂地

## A simple line drawing of two snails. One snail is positioned on a large, pointed leaf, while the other is on the ground below it. Both snails are facing towards the left. The drawing is done in a sketchy, hand-drawn style.

二、古代の大根占  
癸生式文化時代  
二千年位前の頃になると今まで  
の狩猟と農業によつていた不安定  
な生活がようやく終りを告げ、新  
文化が傳つて來た爲に生活の方  
式が一変し、こゝに新しい時代の  
曙が照とすれることになつた。  
人々は農耕を知ることになり、  
一定の土地に定住して部落を作り  
はじめたのはこの時代である。土  
器や石器等の作り方も、更に青銅や  
鐵器と使われ、更に青銅や  
鐵器で道具を作るようになった。食  
生活の上では米や雑穀が用いられ  
ては、生活上の不安がなくなつた。又朝

見でくる」と現在農耕生活に金貨  
近ひてゐる。従つて來た事に對して  
のである。事實日本文化の發祥は  
この時代に出來上つたのである。  
中国の魏志という本に當時の日  
本の體が見えてゐる。それによ  
ると安等は日本を倭と呼び日本人  
を倭人と呼んだ。國は百余國に分  
れ時を定めて通交するとある。こ  
の百余の部落國家の中から天皇家  
を中心とする勢力が增強し内平  
定の機運に向ひ遂に大和朝廷の成  
立を見るに到るのである。當地方  
に於ても熊襲征伐の故事はこれを  
証明するものであるがこの事につ  
いては章を改めて述べたい。 ※

沿岸平地には、既に述べた通りで  
つた事は前回に於て述べた通りで  
あるが、この地域の遺物は比較的  
低地の中でも高い丘になつた場所  
から発見される事はこの辺の事情  
を明らかにしてくれる。  
(池澤) 及び木場の上の田用(小  
池・ひやけ) 大根占中學校前(杉  
原) 大根占小学校下の墓地附近、  
蘆(矢野氏宅地) 遊喜村の上(石  
原) 神川中等である。出土品は土器  
類(写真、後) が主であるが土銀  
(写真、左) 神川より、銅鐙車  
(写真、右) ひやけ及び杉原より、石  
器が発見されている。土銀は漁網の  
おもひに使用したもので網によつ  
て魚を引出したものといふ。次



紡績車は砂笥で直徑六寸の偏平な石の中央に穴を穿つてある。糸に力を入れる爲の道具である。當り時の衣料の原料は主に野生の織機を用いた。絹布もすてにあつたらしいがこれは盛一部の人に限られ庶民衣料としては野生の織機をこの紡績車につなぎよりを織つて織むさういざりばと称する機で織つたのである。以上の分布は極まばらで隣町根占の千束（長谷の上）に見られる集團部落はなかつたが、籠、帶、城の上の台地附近は比較的人が多かつた。

台地に於ては森林を切り開き粟、麦、豆の類を栽培し海岸平地に於ては沼田を開いて水稲を作つた事である。當地方の古代人の容貌風習は本州人と稍異つて異人種といふ思われる。これは辺鄙な位置する所である。これは辺鄙な位置と地形に原因する事大である。か

テニス  
柔剣道  
大会

[illegible]



正  
し  
い  
政  
治  
—  
國  
土  
の  
平  
和